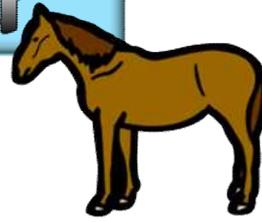


# 文書館通信

14号

東御市文書館  
令和4年  
8月 発行



☎ 文書館直通 0268-67-3312  
東御市教育委員会文化財係直通 0268-75-2717  
✉ メールアドレス bunshokan@city.tomi.nagano.jp

今年の終戦記念日にちなんだ資料は、徴馬（ちょうば）です。

人が戦地に送り出されたように、馬が戦地に送り出された時の資料が「滋野村役場歴史的史料」の中に残されていました。馬と戦争にまつわる資料をご紹介します。

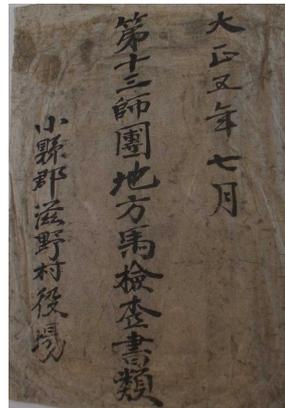
## 【地方馬検査受検書類】 滋野村役場資料

### 軍馬政策第二次計画の新聞記事

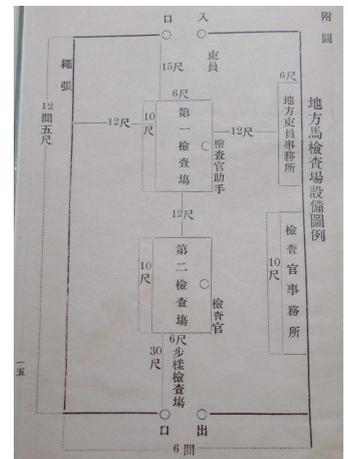
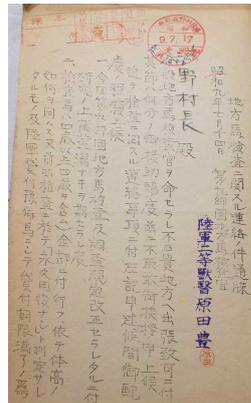


昭和12年7月26日

(東京日日新聞 当館所蔵)



滋野村役場資料No.1285 大正5年 第13師団



滋野村役場資料No.1284  
大正15年 第9師団 馬検査場圖

4～16歳の馬は、体高で「乗」「挽」「駄」の用途に分けられ、更に甲乙丙に細分されます。

※乗甲類は体高145cm以上。検査は陸軍の獣医が検査官として村に来て行いました。

農家で農耕などのために飼われている馬の、軍馬としての適性検査が縣(あがた)小学校で行われています。

### 軍馬政策の歴史

◆ 日清戦争(1894)と日露戦争(1904)を通じて日本の在来馬が近代軍隊の軍馬に適さないと痛感する。

◆ 国策で馬政計画(1906～1935)  
・業績機関に内閣所属の馬政局が新設  
・大型種牡馬の提供

◆ 国の施設での交配  
・軍馬購買事業Ⅱ農家は馬匹(ばひつ)  
・改良の進んだ馬は相場の2倍の値段

### ◆ 戦間期(1918～1939)

・大正軍縮Ⅱ高価な馬より小さくても安い馬が人気  
・昭和恐慌(1929)・東日本冷害(1931、1934)で現金収入が必要

◆ 高価な改良馬生産に戻る

◆ 1935年 国内馬の洋雑種96.6%  
・馬の軍事資源化Ⅱ馬の大量動員

◆ 昭和12年 約22万頭、昭和20年迄には約50万頭が徴馬されたとされる

